



東地中海地域ニュース

イラン情勢(16) : 7月7日~9日

研究員 山崎 和美

アフマディーネジャード大統領は施政方針演説で、国民の不満に耳を傾ける姿勢を示した。一方、ムーサヴィー元首相は政党結成に意欲を示し、9日にはテヘラン大学周辺に元首相支持者たちが集結してデモ行進を行った。

内政

イラン大統領：国民の不満に耳を傾ける姿勢

アフマディーネジャード大統領は7日夜、テレビ演説し、選挙が「世界中のどこよりも自由」であったと主張した。さらに、2期目には経済政策に加えて、改革の推進や自由の拡大、国民の権利などを重視すると施政方針を表明した。大統領選に勝利したものの、改革を訴えたムーサヴィー元首相に大きな支持が集まったのを踏まえ、国民の不満に耳を傾ける姿勢を示したと見られる。

ムーサヴィー元首相：政党結成に意欲

改革派のムーサヴィー元首相は7日までに、陣営のウェブサイトを通じ、「組織を立ち上げることを計画しており、彼らと体系的かつ組織的に行動したい」と述べ、政党結成に意欲を表明した。大統領選敗北の原因に組織力の弱さが指摘されており、政党結成を通じて巻き返しを図る意思を示したと見られる。

ムーサヴィー氏支持者：集会禁止無視し数千人集結

テヘランで9日、敗北した改革派候補ムーサヴィー元首相の支持者ら数千人がテヘラン大学周辺に集結しようとしたため、警官隊が上空に向けて威嚇射撃したり、催涙弾を放ったりするなどして群衆を解散させた。

この日は、言論弾圧と学生への暴行事件が引き金となって1999年7月に起きたテヘラン大学での大規模騒乱から10年となるのに合わせ、抗議集会が呼び掛けられていた。当局は集会禁止令を継続して、集会に参加すれば断固たる措置を取ると警告していた。

目撃者によると、参加者は「独裁者に死を」などと繰り返し叫びながら、テヘラン大へ向かっていた。AP通信によると、大学前には約300人の若者が集結した。当局側が警棒などで鎮圧に乗り出したが、その後、参加者は700人程度までふくらんだという。

外政

スパイ容疑で仏人女性を拘束

イラン在住のフランス人女性(23)がスパイ容疑で当局に拘束された。仏政府によると、女性はイラン大統領選をめぐる抗議デモに参加し、現地の状況などを論ずるメールを知人に送っただけで拘束されたという。サルコジ仏大統領は7日、「スパイ容疑というのはまったくの絵空事」と述べ、イラン側に即時釈放を要求した。

イラク駐留米軍：拘束のイラン外交官5人を釈放

イラク駐留米軍は9日までに、イラク北部の少数民族クルド地域のアルビルで2007年1月に拘束していたイラン外交官5人を釈放した。イラク政府とバグダッド駐在のイラン大使館も確認した。米国大使館はコメントしておらず、釈放の理由も不明である。イラク政府が5人の身柄を預かり、イラン大使館へ引き渡す見通しである。